

Little Diamonds

JUNIOR YOUTH

第20回日本クラブユース サッカー選手権(U - 15)

2005.8.12 ~ 21(福島県・Jヴィレッジ)

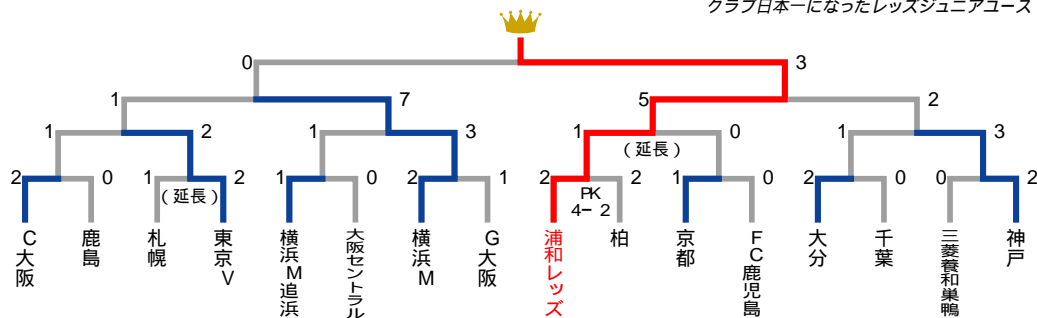
優勝

優勝記念特集号

Jリーグの下部組織に負けなし! 決勝では横浜Mに3 - 0の圧勝



クラブ日本一になったレッズジュニアユース



8月12日から21日まで、福島県のJヴィレッジで開催された、第20回日本クラブユースサッカー選手権(U - 15)大会で、浦和レッズジュニアユースが4年ぶり2度目の優勝を果たした。

レッズジュニアユースは、福岡、G大阪、清水というJリーグの下部組織ばかりのCグループに入り、2勝1分けという好成績で予選リーグを通過。決勝トーナメントでは1回戦で柏にPK勝ち、準々決勝で京都に延長勝ちと苦しんだが、準決勝は神戸を5 - 2、決勝では横浜Mを3 - 0で下す快勝ぶりだった。

同大会制覇は、2001年の第16回大会で、現在トップチームにいる大山俊輔、中村祐也らが初優勝して以来。またこの決勝進出を果たしたことにより、12月の第17回高円宮杯全日本ユース選手権(U - 15)の出場権を得た(埼玉県、関東予選には出場しない)

なお、決勝戦後の表彰式で、田仲智紀、高橋峻希、山田直輝が優秀選手に、田仲がMVPに選ばれた。また優秀選手に高山直人を加えた4人が、9月11日に名古屋市瑞穂球技場で行われたメニコンカップ日本クラブユース(U - 15)東西対抗戦に、東日本チーム代表として出場した。

これからも受け身にならずに——名取 篤・監督

予選リーグからJの下部組織ばかりで気が抜けませんでしたが、逆に勝ち抜けば自信になると思いました。決勝トーナメント1回戦の柏には練習試合で負けていたんですが、今回は常に先行されても粘ってPK勝ちできました。準々決勝の京都戦は初めにPKをはずしたり、攻めながら点が取れなかったりして負けパターンだったんですが、交代が入った選手が頑張ってくれました。

決勝では、選手たちがふだんと変わらない様子でアプしていたので、大丈夫だと思いました。途中で相手が1人退場になっても気を緩めず、テンが良くパスをつなげました。何千回と練習してきたクロスから2点目が入って良かったです。

代表候補や選抜に呼ばれた選手が、手を抜かず泥臭くチームを引っ張ってくれて、周りの選手がそれに乗っていったところがあります。19日はフリーにしたんですが、いつの間にか自分たちでボール回しを始めていました。自分たちで次のことを考えるようになった、その様子を見て、これは最後までいけるかな、と思いましたね。関東大会で三菱養和に負けたとき、選手たちは涙を流していました。それがバネになったのかな、とも思います。

この大会がすべてではありませんから、受け身になって慢心するのが一番怖いことです。今後、打倒レッズということで全国のチームが目標にってきます。そこと、どれだけ戦えるか。9月は少しリフレッシュの期間もありますが、10月からチームも少し変わるといいます。3年生主体になることは間違いないにしても、そこに2年生、1年生がどこまで入ってくるか。チームの中でも競争です。



胴上げされる名取監督(821)

試合記録

グループリーグ

- 浦和 5 - 0 福岡(8/13)
- 浦和 1 - 1 G大阪(8/14)
- 浦和 4 - 1 清水(8/15)

決勝トーナメント

- 1回戦
- 浦和 2 - 2 柏(8/17)
(PK 4 - 2)

準々決勝

- 浦和 1 - 0 京都(8/18)

準決勝

- 浦和 5 - 2 神戸(8/20)

決勝

- 浦和 3 - 0 横浜M(8/21)

うれしさと悔しさ、自分と仲間、自信と課題。

(1) GK 慶徳 優 (3年) 1試合0得点

- (A)前よりも少し積極的に動けるようになった。ご飯をたくさん食べるようになった。
 (B)柏戦。自分が出場していなかったけど、チーム全員で戦えた気がした。
 (C)単純にうれしかった。うれしすぎてあまり他のことは考えていなかった。
 (D)みんなで泊まったこと。旅館の子どももいて10日間のしくりリラックスして過ごせた。
 (E)優勝したけど、まだ全て終わったわけじゃないので、自分もチームももっとレベルアップして、試合に多く出られるようにしたいです。

(2) DF 池田涼司 (3年) 7試合1得点

- (A)柏戦で相手に先制点を取られた時に自分の弱さが出た。仲間がいることを忘れ、「やばい、負ける」と思ってしまった。しかし自分の周りの仲間は勝つために自分の2倍も3倍も頑張っている。そんな自分が弱く見えた。頑張っている仲間今のままじゃ失礼だと思い、少し強くなった。ちょっと変わったと思う。
 (B)柏戦はもろろん心残り、で、「勝つ」ということについては一番良かったと思う。が、次の京都戦が印象に残っている。1点が入りそうでなかなか入らない。しかしピンチも少なくなかった。でもDF陣の我慢。試合中、仲間間で問題はあったけど、延長でチームがこじあけた1点。決して簡単に勝てた試合ではなかった。
 (C)あの場所にまさか自分が立っているとは思わなかった。決まった時にあまり実感がなかった。でもベンチに入るときに、名取さん、ノブさん、長井さんの“胸”に飛び込んだ時、少し実感した。とにかくうれしかった。チョット泣きそうになったのを覚えている。
 (D)リーグの3日間の試合が終わり、休息日のラグビーの練習はもろろん楽しかった。そのあとの地震はビビりました。一番楽しかったのは、みんなで行った川です。気分転換になったと思う。サッカーの事を半分忘れてしまっていた。
 (E)関東大会の養和戦の敗退は今でも忘れていない。何より自分はそのフィールドで戦うことができなかったのも辛かった。もう、あの敗戦はしたくない。それはチーム全体が思っていることだと思う。



表彰式で賞状と優勝カップを掲げる高橋峻希(左)と高山直人

(3) DF 和田祐樹 (3年) 7試合0得点

- (A)大会前は全国のチームに技術など通じるか不安でした。けど大会が終わって優勝という最高の結果で終わって自分自身に自信ができました。
 (B)柏戦だと思います。柏はナイキカップで日本一になっているし、実力も全国でトップだし、同じ関東勢だから、しかもものすごく苦しんだ試合だったから。
 (C)すごうれしかった。

- (D)やっぱり宿舎のことです。大会中に誕生日パーティーをやリ、チームとして最高の雰囲気でした。他にも宿舎の子どもたちと遊んだことが、チームとして、いいリラクセスができたと思います。
 (E)クラブの代表なので高円宮杯でも優勝したいです。

(4) DF 菅井順平 (3年) 7試合0得点

- (A)自分でも全国でそこそこやれたという自信があった。ただ課題も多かったので、そこを変えていき、次の高円宮杯も全国からできるので、その大会でさらに成長した自分が出せるように頑張りたい。
 (B)柏戦。負ける気がしなかったし、みんなもそうだったと思う。柏には大会前の練習試合で負けていることもあって、とにかく勝たかった。トーナメントの初戦が柏と決まってから、みんなの気持ちが一つになっていた。ベンチやスタッフ含めてチームの雰囲気最高だった。この試合をものにしたから優勝できたと思う。
 (C)時間がたつにつれ、言葉にできないくらいうれしくなった。選手、スタッフ、応援してくれた人たちの喜び顔を見ると本当に最高だった。自分は素晴らしいメンバー、スタッフにめぐまれたと思う。
 (D)旅館での生活は楽しかったです。旅館の子どもたちと遊んだり、近くの川で遊んだりしてとても良いリフレッシュになった。準決勝の前日には涼司(池田)の誕生日パーティーもやった。決勝では旅館の人たちも応援に来てくれて本当に一体になった。
 (E)自分にとって最高の思い出になったし、とても良い経験になった。そして遠くから応援に来てくれたサポーターやジュニアユースの後輩、ユースの先輩たちには本当に感謝しているし、うれしかった。なかでもユースの先輩たちとは去年のクラブユースと一緒に戦って、関東で悔しい思いをしたので何か特別な気持ちがあった。今大会を通じてさらにレッズが好きになった。

(5) DF 加瀬 光 (2年) 2試合0得点

- (A)僕は全国大会前にケガをしてしまいました。試合ではわずかな時間しか最後まで動きも悔しい気持ちで大会が終わってしまいました。それで試合に出た気持ちがとても強くなりました。
 (B)柏戦。僕はベンチから見ていたんですけど、両チームとも接戦のうえにPKになり、高山くんが2本止めたことが印象に残りました。
 (C)とてもうれしい気分になりました。でも試合に出られなくて悔しい気持ちの方が大きかったです。
 (D)自己管理の大切さがとてもわかりました。食事をしっかり摂ること、よく寝ることの大切さを実感しました。
 (E)これらがケガに気をつけてまたレギュラーを奪い返したいです。

(6) MF 永田拓也 (3年) 6試合2得点

- (A)タフになったことと、我慢してプレーすることができるようになったことだと思います。タフになったのは、試合が続いているけれど、体調を崩さずにプレーできたこと。それは日々のケアによってタフにプレーできることがわかった。我慢というのは、柏戦にほとんど相手にバックラインで回されていて、我慢ができずに飛び出したり、集中を切らしたりすることがなく、延長も含めて1試合やり通すことができたのは、自分にとっての成長でもあるし、チームの成長につながったと思います。

- (B)準決勝、神戸戦です。5点という大量得点というのもあるけど、その中の3点目が印象にもすごく残っています。少し深い位置でボールを奪って、すぐ攻撃に入ってハーフラインを過ぎたくらいからダイレクトでつないで、最後に自分のセタリングから幸太郎(岸)が決めたあれば、自分たちが目指す攻守の切り替え、ワンタッチ、ツータッチで簡単にサッカーをするのが完璧にできたと思いました。練習みたいにボールがすらすら回ってとても気持ちよかったです。

- (C)やっぱりこのチームは最高だな、と思いました。素晴らしいスタッフだし、後輩たちもものすごくいいやつばかりです。俺らの学年のやつらと一緒にいるだけで幸せです。サッカーしている時も、ふつと一緒に過ごしている時も最高で、こんな最高のやつらと出会って本当に良かったと思いました。これからどうなるよりも、いま優勝したことにみんなで喜び合いたいと思いました。
 (D)休養日に旅館の近くの川でみんなで遊んだことです。川で遊ぼうなんて約束していないのに、全員集まって楽しく遊んだことがとてもいい思い出です。それくらい僕たちはみんな仲がいいと、また実感しました。
 (E)この大会は、みんなものすごい気合だったと思う。なぜかという試合の朝とかに、みんなで「勝とうぜい」とか「行くぞ」とか言い合ったり、気合が他のチームより断然まざっていたと思いました。



決勝のピッチに歩みだすイレブン。右から高山直人、菅井順平、森田健介、山田直輝、和田祐樹

(7) MF 高橋峻希 (3年) 7試合0得点

- (A)チーム全員でサッカーをすれば必ずいい方向にいくことがわかった。柏戦は特にそうだった。先にゴールされたけれど、みんな落ち込まずにいて、逆転までいった。そのあとまた点を入れられたけど自分たちのペースでやれた。
 (B)準々決勝、京都戦。前半に自分がPKをはずしてしまい、チームを苦しめてしまった。決定的なチャンスはどれだけ大事かわかった。
 (C)終わりのホイッスルがなった時は言葉にあらわせないくらいうれしかった。
 (D)次の大会は、またチャレンジャーの気持ちでのぞみたい。

(8) MF 山田直輝 (3年) 7試合1得点

- (A)大会前に2度もケガをして大会に間に合わなくなってしまうのではないかと心配してしまいました。このことでケガへのケアが大切だということを学びました。
 (B)京都戦。前半決定的なシュートを何本も外して、後半リズムが崩れてしまうということ、らめなければ勝てるという2つを学べた試合だった。

大会の経過 チームを成長させた7試合。最後は大舞台で持ち味を発揮

予選リーグ3試合、決勝トーナメント4試合。追い詰められることこそなかったが、苦戦もあった。特に決勝トーナメントの序盤はなかなか勝利を引き寄せることができず2試合連続延長となったが、あせったりじれたりしてミスを引き起こすことなく、粘り強く戦った。そのことがチームを成長させ、準決勝、決勝という大きな舞台でもレッズの持ち味を百パーセント発揮できた要因だろう。

2勝1分けで予選突破 ~グループリーグ

初戦、福岡に快勝したレッズだったが、第2戦はG



前半15分、ヘディングで2点目を決めた藤田圭介(8.15/グループリーグ・清水戦)

をつぶした後で、7分に高橋の右クロスに岸が飛び込んで頭で先制。15分には同じような形で山田のクロ

大阪に引き分け。後半15分に武富が先制したが、27分にセットプレーから失点してしまった。

大敗しなければ予選通過は間違いのない第3戦の清水戦は、試合開始から完全なレッズペース。何度かチャンス

スから藤田のヘッド。29分に田仲が相手GKと交錯しながらゴール。終了間際にはPKを田仲が決めて、前半で勝負を決めた。2勝1分け得失点差+8はグループ1位。

2試合連続延長を制す ~決勝トーナメント

1回戦は、前半7分に今大会唯一の先制点を許した。8分に山田が永田とのワンツーから同点ゴールを決め、14分に岸が永田のシュートのこぼれ球を詰めて逆転する。しかし前半ロスタイムに再び追い付かれ、そのまま延長でも点が入らずPK戦に持ち込まれた。

大事なものを味わった全国大会 ~ 選手の感想から

- (C)みんなと喜んで初めて優勝したと実感した。いろいろあったがレッズのみんなとやってきて良かった。
 (D)試合に出る人と出ない人がいますが、宿舎内で、出られなかった人が出た人たちのために最大限のことをしてくれたことが一番印象に残っています。
 (E)このような大会で日本全国のチームとできて、とても楽しかったです。



決勝で3点目を挙げた永田拓也(右)、かけよる池田涼司。背中は山田直輝

(9)FW 岸 幸太郎 (3年) 7試合6得点

- (A)ハイプレッシャー、相手DFの当たりの強い中でやっていたので、そういう面での対応は少しは良くなったと思う。あとはふだんの生活の面でも変わったと思う。
 (B)柏戦と京都戦。柏戦はずっとDFでボールを回して来るので、じれずに我慢しなくて走りっぱなしでかなり疲れていたけど、そこで自分がサボったらチームに迷惑がかかってしまうので、頑張り、勝てたことが良かった。京都戦は最初に決められるところではずしてしまっ、何回もはずし、気持ちがキレそうになったけど、自分でおさえ、延長で入れることができてよかった。
 (C)ただ、うれしいとそのときは思った。決勝で点を決めることができたし、本当に良かった。
 (D)ご飯がおいしかった。川が楽しかった。

(10)MF 田仲智紀 (3年) 7試合3得点

- (A)自己管理の意識が高くなったこと。連戦でも闘い抜けて、精神的にも肉体的にもタフになった。
 (B)柏戦。練習試合で負けていたので不安もあったけど、全員でしっかり闘えた。PK戦は感動した。
 (C)自分たちらしいサッカーで勝って最高だった。2回目の日本一を味わえてうれしかった。
 (D)サブやサポート役の人たちがいい準備をしてくれたので自分たちもいい状態で試合にのぞめた。

(11)FW 武富尚紀 (3年) 7試合3得点

- (A)試合を重ねるごとに勝ちたいという意志が強くなった。あと、さらにサッカーが楽しくなったし、今まで以上にサッカーが好きになった。
 (B)柏戦。相手がDFラインで長くボールを回していて、自分はそのボールを追いかけただけで、攻撃面にはあまり参加できずに悔しい思いをしたから、この大会で一番悔しい試合となって印象に残った。
 (C)自分は後半途中交代で、ベンチでホイッスルを聞いて、最後まで出たかったという気持ちもあったが、それよりも優勝した喜びの方が大きかった。
 (D)監督やコーチたちの優しさとお叱りを知った。もし、この監督やコーチがいなかったら、このような結果にならなかったと思う。だから監督やコーチに感謝したい。

- (A).大会が終わって自分が変わったと思うところ / (B).決勝以外で印象に残った試合とその理由 / (C).優勝が決まった時に思ったこと / (D).試合以外で印象に残ったこと / (E).その他、大会について何でも

- (E)に大会で自分の足りない部分がよくわかった。この足りない部分を自分の新しい課題として、次の大会に向けて練習して克服していきたい。

(12)DF 森田健介 (2年) 7試合0得点

- (A)サッカーの面では、速いプレッシャーの中でやっていたので、ボールをもらう前にまわりを見たり、判断を早くするということが少しできるようになりました。生活面では、食事をしっかりと、集団生活なのでまわりをよく見て行動するということなどを、あらためることができました。
 (B)柏戦。お互いにいいプレーをしていて、けっこう苦戦したからです。もう一つは京都戦です。みんなが協力して気合がとて入っていたので延長に1点をもぎることができた。とてもいい試合をした。
 (C)毎日毎日の練習や試合を頑張ったがいがあったと思いました。こんなに貴重な体験をすることができてうれしいです。先輩や監督、コーチに感謝しています。また遠くから応援にみんなが来てくれたおかげで優勝ができたので、見に来てくれたジュニアユースの人たち、親にも感謝、と思いました。
 (D)旅館での生活がとてもしやすく、試合の疲れなどが取れやすかったです。料理はたくさん出てきて大変だったけどおいしかったし、毎日ちゃんと食べられたから、試合でもいいプレーができたんだと思いました。旅館の人たちに感謝しています。川遊びが楽しかったです。
 (E)来年も「優勝」という大きな目標に向かって、これからも努力したいと思います。

(13)FW 茸本啓太 (2年) 3試合1得点

- (A)今大会では少ししか出場できなくて、つらく悔しい日々が続き、自分に足りないところがわかりました。現実としっかり向き合い自分を分析できるようになりました。あと、正直な気持ち、試合に出たいという気持ちがわき出てきました。
 (B)僕が点を決めた瞬間(福岡戦)もだけど、やはり白熱した柏戦です。出場できませんでしたが、ベンチから見ていても本当にあこがれる試合でした。相手のじれっと回してくるパスにチーム一丸となって守り攻撃しているところが、言葉が出ないほどすごかったです。
 (C)正直にうれしかったです。それと同時に、高円宮杯までには出場時間が今の何倍にもなるように練習しないと、と思いました。この快感をこれから何度も味わいたいなと思いました。
 (D)宿舎と休息日のことが印象に残り、特に宿舎での食事です。10日間いつもより多い量を食べてつらかったけど、あらためて食事の大切さがわかりました。
 (E)に大会を通して自分のやらなくてはいけないことがよくわかりました。とても勉強になった10日間でした。今大会を終えて来年もJヴィレッジに来て、スタジアムで2勝したいという強い気持ちが出てきました。それを達成

するために、食事、練習を大事にして、またAチームと一緒に活動できるように頑張ります。

(14)MF 原口元気 (2年) 3試合0得点

- (A)球際のところを逃げずに強く当たれるようになったし、競り合いや守備も意識してプレーできるようになったと思います。あと大会で見つけたシュートの精度の悪さや体力不足はいま練習を続けている途中です。
 (B)柏戦です。とても苦しい状況になっても先輩たちが楽しそうにプレーしていたからです。出場はしませんでしたけど、いい刺激を受けられたので良かったです。
 (C)みんなで勝ち取った優勝だったんでうれしかったですけど、僕はあまり試合に出られなかったので悔しさの方が強かったです。あと来年もこの場所に来て優勝してやるんだと思いました。
 (D)一番感じたことは食事の大切さです。僕ははずっと池田コーチのとなりで食事していたんですが、そこでしっかり食べることを教えてもらいました。また体調管理や休日などのリフレッシュの仕方も学べました。



決勝で先制点を挙げた田仲智紀(10)を仲間が祝福

選手出場記録

	13日 福岡	14日 大阪	15日 清水	17日 柏	18日 京都	20日 神戸	21日 横浜M
(1) GK 慶徳 優 (3)							
(2) DF 池田 涼司 (3)						1	
(3) DF 和田 祐樹 (3)							
(4) DF 菅井 順平 (3)							
(5) DF 加瀬 光 (2)							
(6) MF 永田 拓也 (3)	1						1
(7) MF 高橋 峻希 (3)							
(8) MF 山田 直輝 (3)				1			
(9) FW 岸 幸太郎 (3)	1		1	1	1	1	1
(10) MF 田仲 智紀 (3)			2				1
(11) FW 武富 尚紀 (3)	1	1				1	
(12) DF 森田 健介 (2)							
(13) FW 茸本 啓太 (2)	1						
(14) MF 原口 元気 (2)							
(15) MF 石沢 哲也 (2)						2	
(16) GK 高山 直人 (3)							
(17) MF 沼 大輔 (3)							
(18) FW 藤田 圭介 (3)	1		1				
(19) DF 大里 康朗 (2)							
(5) GK 原 豊寛 (2)							
(24) MF 池西 希 (2)							
(25) FW 磯部 裕基 (1)							

PK戦では高山が柏の先頭キッカーなど2本を止め、4 - 2でレッズが制した。

準々決勝の京都戦は、京都の早いプレスとオフサイドトラップに苦戦し、延長後半まで点が取れなかった。残り2分というところで中央が上がった球を藤田が頭で前へ送り、ラインを破って拾った岸がドリブル。出てくるGKをかかわして決勝ゴールを叩き込んだ。

2試合苦しんだあとの準決勝、神戸戦は大勝。3分に混戦から池田が先制すると、7分に同点にされたものの、12分に武富、21

分に岸、34分に石沢と得点を積み重ね、後半開始早々1点を返されても、23分に石沢がこの試合2点目を決め、初戦の福岡戦と並び5点を挙げた。

緊張見せず「らしさ」で勝利 ~ 決勝・横浜マリノス戦

決勝という大きな舞台で、緊張で硬くなることもなく、レッズらしさを出して勝利した。

前半から試合を支配

前半31分、先制ゴールを挙げた田仲智紀に永田拓也が駆け寄る (821/決勝・横浜M戦)



し、DFラインからしっかり球をつないで左右に振り、外から崩す形が何度も見られ、31分、武富のパスをから田仲がシュート。DFに当たってこぼれたところをもう一度落ち着いて蹴りこみ先制した。

後半2分、高橋をマークしていた横浜MのDFが2回目の警告で退場。数的優位に立っても手を緩めず、14分、永田の左クロスに岸が飛び込み試合を決定付ける2点目を挙げた。さらに31分、永田がやや遠目からのシュートで駄目を押した。



後半14分、クロスに飛び込み2点目を挙げた岸幸太郎(821/決勝・横浜M戦)



延長後半8分、岸幸太郎のゴールが決まり喜びを分かち合っている様子 (818/準々決勝・京都戦)

(E)今後、高円宮杯でAチームでレギュラーを取れるように頑張ります。1年後は僕たち2年生が中心となり、もう一度日本一になれるようこの大会で得たことを生かしていければ良いと思います。

(15)MF 石沢哲也 (2年) 4試合2得点

(A)プレーでは、プレッシャーが速かったため、ボールをもらう前にまわりを見るくせがついた。また生活面では、前より試合の準備ができてまわりに気づくことができるようになった。



MVPの表彰を受けた田仲智紀

(B)神戸戦です。その前の試合で自分で思ったプレーがうまくいかず悔しい思いをして、神戸戦でとてもいいプレーができたからです。

(C)学年上の大会だったけど、チーム一丸となってとても良い試合ばかりで優勝できたのでうれしかったです。

(D)休日でみんなと川で遊んでとてもよくリフレッシュできたことです。

(E)来年も必ず全国大会に出て優勝する。

(16)GK 高山直人 (3年) 7試合0得点

(A)大会前は責任感を持ってプレーをできていないときがあったけど、大会中、大会を終えてからはしっかりと責任感を持ってできるようになった。

(B)柏戦。全国大会で一番厳しい試合だったから、あの試合に勝てたのが一番大きかったと思う。

(C)これで全試合が終わったんだなあという達成感と、日本一になったんだなあといううれしさ。

(D)休日に川で遊んでリフレッシュしたこと。

(E)予選リーグが終わったときにはもう、優勝できるかなあという思いが出てきた。

(17)MF 沼 大輔 (3年) 1試合0得点

(A)特に変わっていないと思う。今までよりも仲間を大切に思うようになった。

(B)柏戦は特にみんなが、勝ちたいという気持ちになっていた。試合が終わった後、気持ちよかった。

(C)とてもうれしかった。でも、あまり試合に出ていなかったから悔しかった。複雑な気持ちだった。

(D)仲間とすごした時間が全部印象に残っています。

(E)優勝してとてもうれしかった。

(18)FW 藤田圭介 (3年) 6試合2得点

(A)試合に出るときはいつも途中からだし、ゴールをあまり決められなくてくやしかった。それでもっとゴールを決めたいと思いました。決めるには、たくさんシュートをしなくちゃいけないし、FWなのでパスよりシュートを先に選択しようと思いました。そういう気持ちの面で変わったと思います。

(B)柏戦。自分は試合には出られなかったけど、一番苦戦した試合だし、楽しい試合だった。PKまでいっての勝利だったので、苦戦した分すごくうれしかった。

(C)とにかくうれしかった。自分が点を決めて勝てたら

もっとうれしかったけど、今までやってきた通りの試合をして練習の成果が発揮できて勝てたのでよかったと思う。今まで頑張ってきて良かった。

(D)長くみんなと一緒にご飯を食べたりお風呂に入ったり、いろいろしていたのでとても楽しかったし、みんなの仲もいっそう深まったと思う。チームメイトの誕生日が大会中にあたりして、みんな盛り上がった。

(E)出場機会があまりなかったし、ゴールも決められなかったから、次の大会ではもっとたくさん試合に出てゴールもたくさん決めたい。

(19)DF 大里康朗 (2年) 0試合0得点

(A)僕は、全国大会に連れていってもらえましたが出場することができずにいて、1試合1試合過ぎるたびに悔しい思いが強くなりました。終わってからは、今のAチームと練習する時間を大切にしようと思いました。

(B)柏戦です。延長戦も引き分けてPK戦にまでなったとき、見てることしかできまなかったけど、とても緊張しました。高山くんが2本止めて勝った時はとてもうれしかったです。

(C)とてもうれしかったですが、試合に出られずに終わってしまったことが悔しかったです。そして自分たちの代でもこの舞台に立ちたいと思いました。

(D)宿のご飯が思った以上に多かったことです。量は多かったですが、おいしかったです。あと休日に川で遊んで魚がたくさんいて驚いたことも印象に残りました。

(E)3年生の代で優勝したので、自分たちの代でも優勝できるよう、もっともっと練習して強くなりたいです。

(22)GK 原 豊寛 (2年) 0試合0得点

(A)身長、ビデオ撮影、ゴールキーパースキル。

(B)柏戦。PKまで持ち込むほどの接戦だったから。

(C)やったー！優勝だー！

(D)旅館の子どもたち。

(24)MF 池西 希 (2年) 0試合0得点

(A)僕は試合には出られなかったけれど、ビデオ撮影などでレベルの高い試合を見て、技術だけでは勝てないということがわかりました。だから気持ちの面では変わろうと、いま努力しています。

(B)柏戦。僕はその試合にはベンチ入りはできず、違うチームのビデオ撮影に行っていたけど、その試合は70分で終わり、レッズの試合を見に帰った。2 - 2



京都戦で岸幸太郎が貴重な決勝ゴールを決める

で同点の接戦だった。とても息詰まるすごい試合だった。PK戦で勝った時はホントにうれしかった。

(C)僕はベンチで決勝を見てたけれど、とても良い試合で、決まった時はホントにうれしかった。優勝の実感は金メダルをもらったときに初めてわいた。

(D)宿舎での時間はとても楽しかったです。休日に川に行き、とても良いリフレッシュになりました。

(E)1試合も出られなかったけれど、とても良い経験になりました。これからも生かし、頑張っていきたいです。



中盤で攻撃の起点になった山田直輝。後ろは菅井順平

(25)FW 磯部裕基 (1年) 1試合0得点

(A)けっこう、いろんな面で変わったと思います。たとえばプレーでも、3年生の影響を受けて前からボールをうばいにいったり、トラップでも自分が行きたい方向に行けるようになってきています。あとチームの準備も前より積極的にやるところです。

(B)清水戦です。僕が5分出られたことです。点は取れなかったけど、やって楽しかったです。出た5分は自分にとっていい経験になりました。

(C)僕がこのチームに入れてほんとに良かったなあと思いました。僕は全国大会は初めてだったし3年生とも一緒に練習したり、試合も初めてだったけど、みんなやさしくて、本当に楽しかったです。優勝した時は本当にうれしかったです。

(D)試合以外ではみんなで川に行ったりしました。あんな大きい川に入るのは初めてだし、川の流れが僕にとっては速かったです。だけど、その川は遊泳禁止でちょっとイヤでした。

(E)大会中は、先輩が優しく寝る前も話しかけてくれたりして、夜も楽しく生活できました。僕はサッカー以外にチームの準備も頑張りました。朝食や夕食の米が多くてびっくりしたけど、出た物を全部食べたせいかな今けっこう身長が伸びています。

岩井 陸 (3年)

(A)今回はケガで手伝いをしに行った。試合のときに自分がしなくてはいけないことをちゃんとできるようになった。

(B)京都戦。少しみんなの調子が悪く、なかなか点が取れずにいて、苦しい試合だったと思う。

(C)うれしかったが、プレーしたかった。

(D)みんな盛り上がっていて楽しかった。ご飯はおいしかった。魚が毎回出た。19日は池田君の誕生日で、池田君はマヨネーズをかけてくれ、くさかった。

(E)チームが一つになっていて素晴らしい。

スタッフから

選手の盛り上げに尽力した
池田伸康 コーチ



優勝はもちろんうれしいです。今年初めてジュニアユースのコーチをやって、サッカーのプレーだけでなく食事や生活など、中学生とはこういうものかというのが実感できましたし、10日間、選手と同じ釜の飯を食べたというのは良かったと思います。

戦術などは名取監督にお任せして、僕は試合の入り方やウォーミングアップの盛り上げを大事にしてみました。またフリーのときにはできるだけ子どもたちに声をかけたり、悩みやプレーの相談にも乗れたと思います。

京都戦の勝利がチーム力示した
長井敦史 GKコーチ

選手たちが非常に頑張ってくれてうれしかったです。名取監督も言っていました、1試合1試合勝ち抜くために何をしなくてはならないかを、休日の過ごし方、食事をしっかりとることなどを含めて自分たち自身で実践していったと思います。もちろん、それだけでは勝てないで、ふだんから積み重ねてきたものをグラウンドで表現できたと思います。

僕の場合、GKコーチという立場なので、3人のGKが大会中モチベーションを落とさないように気をつけて声をかけたりしていました。柏戦のPK戦は、高山が1本目をいい形で止めたので最終的にはそれが大きかったと思います。京都戦



はなかなか点が取れなかったですが、よく我慢して失点せずに、最後はPK戦でなく点を決めて勝ったというのが、このチームの力の表われだと思います。

意識の高い子が多かった

安齋健太郎 アスレティック・トレーナー

気を使ったのは食事を十分にとらせること、睡眠時間をしっかりとらせることです。今の3年生は意識の高い子が多くて、たとえば風呂上りにストレッチをやり、と1回言えばそのあと自分でちゃんとやってから自分の時間に戻っていったりとか、いろんな意味でサッカーに真面目な子が多かったです。ケガ人も何人か出ましたけど、いかに次の日までコンディションを合わせるかというのが僕の仕事です、僕にとっても仕事のしがいがある大会でした。優勝した瞬間は自分がしたようにうれしかったです。